

# 庁議の概要

開催日：H16.5.17

## 項 目

- 1 16年度の政策協議の進め方について【政策推進担当】
- 2 構造改革特区について【企画振興部】
- 3 その他

## 内 容

- 1 16年度の政策協議の進め方について

政策推進担当より説明を行った後、意見交換を行った。

### [説明要旨]

ここ数年は県にとって極めて重要な局面を迎える。三位一体改革の初年度は大きな影響があったが、更に17、18年度も続く。市町村合併や規制緩和、分権の流れもあるし社会経済の変化も激しい。これらを考えると、今後の県政運営では、

県の政策として何を取捨選択し、スピード感を持って実践していくかという点から、

・三位一体改革の進展に呼応した行財政経営方針の「実践」・「フォローアップ」

行財政・組織運営の面で変更・シフトしていくべきものという点から、

・政策のプライオリティに沿った財政投入（全体最適予算）の実現

・行政が担う公共サービスの縮小・質的变化に合わせた行政経費の抑制・削減

・これからの出先機関の機能・役割を踏まえた組織の見直し・再編成

ということが全庁で取り組む大きな課題となる。これらについて、各部局、全職員の共通認識を形成しながら、それぞれの方向性や実行のためのプロセスとスケジュールを明らかにしていくことが必要。

政策の面は、今年度以下の取り組みをしたい。行財政・組織運営の面は別途総務部で検討し今後お願いする予定である。

16年度の政策協議は、昨年度に基本となる経営方針をつくったので、この実践という観点に絞る。

- ・協議内容は部局ごとに 指定するテーマと 部局で適宜選定してもらうテーマがある。また、複数の部局にわたる部局横断的テーマ（昨年度政策協議で確認した10テーマを中心）については、取りまとめ部局を決めて関係部局が一堂に会して協議する 部局共同テーマと、各部局に共通に関係する 部局共通テーマがある。
- ・6月21日から7月5日にかけて政策協議を行い、その後9月上旬までに政策協議の整理、予算等への反映の確認を1月上旬に行う予定である。
- ・現在、総務部から事務事業の見直し作業の依頼があっているが、その中で重要な課題については部局で適宜選定してもらうテーマに取り上げて政策協議の場で議論していただきたい。
- ・協議するテーマについて、各部局で意見があれば調整させていただく。
- ・「社会資本の整備の考え方」「南海地震対策」「雇用対策」「県内企業に対する信用供与」については、15年度の政策協議以降に庁内検討会の立ち上げができていますので、今後検討を進めるうえでの問題点などを協議したい。
- ・10テーマに追加した新たなテーマの「一次産業の担い手確保」については、複数の部局で連携を強くする必要があると考えたもの。また、「遊休資産の活用と処分の方針」については、空いている職員住宅や教室の活用方策、土地開発公社所有など未利用土地資産について特に協議を行いたい。
- ・部局横断的テーマについては、取りまとめ幹事役の部局と進め方など調整させてもらいたい。
- ・「国の制度の廃止や運用面での改善提案」については、地方の自由度といった点から大きなテーマだが、これまで提案がない状況。この際各々の部局から1つは出す、というつもりで考えてもらいたい。

#### [ 主な意見 ]

- ・「予算編成のあり方」「組織・体制の見直し」については政策協議の中で話し合うのか。  
一定大きな観点から、政策協議で取り上げる（部局ごとのテーマの中、総務部で予定）が、このスケジュールの他で、別途行う。
- ・公共事業の投資額などの前提条件は示されるのか。  
平成 17 年度予算編成に関するシーリング率とかをこの段階で示すことは無理。今のところ基本は昨年政策協議の際に示した一般財源で 500 億円の減少ということを念頭に置いてはどうか。今後、その都度、最新情報の提供はする。
- ・部局横断的テーマについての目標年次は中長期的な展望でよいか。  
テーマによって異なる。例えば、社会資本の整備の考え方、南海地震対策のテーマは中長期の視点があるが、雇用対策といったテーマは、できるものは実行という短期視点がある。この部局横断テーマは、政策協議で集まってすぐに話し合いができるというものでなく、政策協議までに幹事部局が中心となって事前に打ち合わせを行って欲しい。

## 2 構造改革特区について

企画振興部企画調整課長より説明を行った後、意見交換を行った。

#### [ 説明要旨 ]

- ・特区とは、地方の自主的な取り組みを阻害する要因となっている国の規制を改革するもの。
- ・特区により、仕事のやり方が変わる。「なぜできないかではなく、どうすればいいのか」
- ・特区には、「提案」「申請・認定」「評価」の 3 段階がある。「提案」は民間団体でもできるが、「申請・認定」は地方公共団体のみ可能。
- ・特区に似た仕組みとして「地域再生プログラム」があるが、こちらは権限移譲の促進や補助要件の改善、各省庁の支援施策を連携・集中させるもの。
- ・今後、仕事をする中で規制等により実現が困難な場合は、「特区」や「地域再生プログラム」により障壁が除去できないかを必ず考えるようにすること。こういう仕事が県の大事な役割。

#### [ 主な意見 ]

- ・特区や地域再生プログラムに関する説明会は行うのか。  
地域支援企画員の 7 つのブロックごとに市町村や民間を対象とした説明会を実施する予定。

## 3 その他

### 宿毛佐伯フェリーについて【港湾空港局】

- ・福岡県の業者が「ニューあしずり」を購入して 1 年間運行を行い、その後新船を建造することを計画している。今後は破産管財人との価格交渉を行い、その後運行に係る免許の取得といった段階に進む。幡多広域市町村や県とも最大限の支援を行うことをお願いしたい。
- ・県にとってのハードルはどういったことが想定されるか。  
運行に関する助成策と航路の利用拡大に向けた施策の実施である。

### コンピテンシー研修について【総務部】

- ・今年度から自己推薦にあわせて本格的に部局長推薦を取り入れたのでよろしくお願いしたい。
- ・この研修については、通常業務への影響が大きく、所属ごとの受講機会が均等でないといった声があるので、各所属では出来るだけ受講しやすいような配慮をお願いしたい。

### 5 月 13 日開催の愛媛・高知交流会議について【企画振興部】

- ・7 月 15 日から松山～上海の定期便が週 2 回運行を開始する。高知県としても最大限の支援を行う。四国として空路維持を考えないといけない。
  - ・森林環境税に関して、愛媛県でも 11 月 11 日を山の日と設定して取り組みを行ってくれることとなった。今後は、四国山の日となるように他県へ働きかけを行っていく。
  - ・中山間直接支払制度については、愛媛県も重要視をしている。
- 三位一体改革に関する知事会の動きや高知県の姿勢など、情報の共有をお願いしたい。【要請】

知事から

先週の庁議の時に、もうちょっと踏み込んで言えば良かったんですが、庁議の前の日の日曜日の読売の社説に麻生総務大臣の三位一体の改革に対する試案を、地方を甘えさせるものだと厳しく批判する内容の論説記事が出てたんです。内容はですね、例えば高知県などのような、行財政改革にも真剣に取り組んできたというような努力を全く知らないか、無視したかということですし、現状の地方の県・市町村の財政状況などの実態からも大きくかけ離れた記事です。けれども、あれだけの全国紙の社説にですね、堂々とかこういう地方の無駄遣い論というものが正論として出てくるといことはかなり状況を真剣に捉えなければいけないんじゃないかと思います。6月5日には骨太の次の方針が予定をされていますが、今の流れだと選挙前なので、夏から秋に真剣にまた議論すればいいんでしょう、というような工程表を示すだけで終わるのじゃないかと。で、7月に参議院選挙ということになると諸般の事情からよほどのことが起きないと大きな変化にはつながらないということが一般的に予測をされています。ということ積み上げていくと、主張すべきは主張しなきゃいけません、しかし現実にはやはりどこまでこういう地方の無駄遣い論というものを、スパンと反論できるかというのは大変悩ましい事態にきていますし、こうした地方交付税の大きな削減への圧力などがもっともっとやはり加速されるということも考えて取り組まなきゃいけないんじゃないかなということだと思います。

で、そういうこととですね先週のちょうど庁議でも市町村合併が最後のところでなかなかいろんな意見の集約が出来ず、また、地域の方々の住民投票アンケートでの反対が多くて進まない、という紹介が企画振興部からありました。こういうことを踏まえて色々考えますと、これまで例えば市町村合併に対しては、あくまでも地域住民の自主的な判断に任せるべきだ、ということを目指してきましたし、また、県財政などの行財政改革という中でも人件費とか人の数を減らすということは人事委員会制度などの過去からの歴史ということもあるし、それをまず最初にとということよりも、他にまだまだやるべきことがあるんじゃないかということで、いろんな取り組みをしてきました。で、そういう、まあ、正論というか筋論はそのままなんら間違いは無いと思いますが、まあ端的に言えば、ことここに至ってはですね、車でいえばアクセルを踏んだりハンドルを切りかえたりギアチェンジをしたりということがもう必要な時期にきてるんじゃないかと。

市町村合併で言えばですね、より強く、やはり促していくという、まあアクセルを踏むということがどういうやりかたかは別にして、事例として必要ではないかと。それから、予算についても、これまでずっと各部局ごとのシーリングということでご努力をいただきましたし、これからも各部局の自主性ということ長いスパンで言えば基本に貫いていかなければいけません、これもことここに至った段階では思い切って議論をしてみるというような、ハンドルに例えれば切り替えがやっぱり一時期必要な時ではないかと思います。また、アウトソーシングの取り組みも本来はそういう趣旨でないところもありましたが、それもことここに至ればですね、職員数の削減と連動させるというようなことはすぐ言えることではもちろん無いです。けれども思いとしては職員数の少ない中で県庁組織を動かしていく、ギアにたとえればローギアで動かしていくような組織にしていく、そのためにコアにあたる仕事は何か、どうしても行政が担わなきゃいけない仕事は何かということ洗い出しをしていく、というようなですね各方面でのアクセルとハンドルとギアの切り替えや踏み込みが必要な時ではないかなということを書いて、先週の庁議が終わった後の三役会議では一部の幹部の方にはそういうお話をいたしました。

改めて庁議という場でそういう思いを申し上げるとともに、今後選挙までに予定されています政策協議でもそういうことを念頭においてぜひ議論をしてもらいたいし、それを受けて7月の議会の冒頭の提案理由では今申し上げたようなアクセル、ハンドル、ギアチェンジにいたるところを、表現はいろいろ考えなきゃいけませんし、思いとして一応みんなが共通認識にして持つことと外向けに言葉に出すこととは、ずれが出るかもしれませんが、そういうことをまあ、ある程度明言・表明をしていかなきゃいけないということを書いたので是非そのことを受け止めてもらいたいと思います。

それから、今日説明のあった特区・地域再生に関しては、これもこれまで市町村合併論ではないですけれども自分としては筋論としてですね、こういうやり方は本当の地方分権か、ということをお願いしてきて、そのことが職員の皆さんが少しアイデアを出すのをためらってしまったということにつながってるのではないかと反省をしています。これも、ことここにくればですね、本質論としてどうかというふうな議論よりは、せっかくある制度をもっと利用する、また利用することによって今の制度の見直しとかいうことのブレインストーミングとかアイデア出しの訓練をしていくということも絶対必要だと思いますので、是非ノルマとは言いませんけれども、各部局で各課室それぞれ持っているもので何か出せないかということをもっとコンテストのような思いでひとつ考えて出してってもらいたいなど。この間、企画調整課にも出ていただいたんですけども、若手の経済人とのお話などをしてもそれなりにいろんな思いとかですね、実際にやってる仕事の中での問題点というのが出てきますので、それぞれの持ち場で関わっておられる業界なり民間なり市町村なりのお話を聞けばですね、必ず何かは出てくるんじゃないかという事を思います。小さなものでもいいから積み上げて特区や地域再生にどんどん繋げてですね、訓練だと思って、このことにも踏み込んでみたいというふうに思っています。

また、最後に企画振興部から愛媛県知事との対談の話が出ました。山の日などにそういう形で取り組んでいただけるという大変ありがたいことですが、併せてですね、これも話しにあった上海便が出来るという事を、やはり高知県、徳島県、香川県も支えていけるんじゃないと四国道州制がどうだといったってですね、そういう経済圏域を作っていくという実績が積めないだろうと思います。ということからさん SUN 高知に上海便が出来るとみんな使ってみませんかというふうなPRを出してみようかと私から申し上げたんですけども、是非そういう風に四国が一体になって競争しながら、また、応援をしあうところは応援をしあっていくということを進めていく必要があるなという事を思いますので、こちらの県から提案したものをお願いをして広げるというだけではなくてそれぞれの県がなさっていることを是非また高知県としても積極的に応援をしていくという視点も持っていただけたらなということをお願いします。

で、併せてですね、最近 [nifty のココログというコーナー](#) で日々の事を書いていっております。今、申し上げたアクセル、ハンドル、ギアの話もそういうものに載せていこうと思いますので、是非見ていただきたいし、なんか、あちこちで言った話がすぐ知事が書いてしまうなという風に思われる方もいるかとおもいますが、この情報公開の時代ですから、絶対外に出してはいかん話には出さないようにしております。例えばプロ野球のキャンプの話とかね、いうのは出さないように注意はしているつもりですので、こちらへんはちょっとということがあれば言っていただければ良く自制をしますけれども、その他のことは是非多くの方に見ていただいて、こんな話があったかとか、こういう考え方かという事を知っていただくメディアに使ってもらえるかなということをお願いします。